



# 校長室だより

八代市立八代小学校  
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」

R5,10,2 No,15

八代小ホームページ

## 全校集会で「友達」に係る話をしました

9月20日(水)の午後、全校集会を(熱中症防止のためオンラインで)実施しました。

今回の校長講話は、「友達」をテーマに、「今の段階は、友達を作ろうとする行為が大事」であることや、「(通称)10歳の壁を知り、客観的に自分を見つめることが大事」、「友達になれそうにない人とも穏やかな関係を築くことが大事」、「友達は、数の多さではなく、どれだけよい関係を築けるかが大事」、「最上の友達とは、お互いを高め合う、向上心で繋がっている友達」であること、また、友達とよい関係を築く上で大切にしたい行為について、プレゼンテーションソフトを活用しながら話しました。



画面越しではありましたが、真剣に話を聴いている子供たちの姿を見て感心しました。

この話が、友達の在り方について考えるきっかけや、友達関係で抱えている悩みや不安などの軽減・解消、引いてはいじめの防止につながることを願っています。

## 「就学時健康診断」「親の学びプログラム」を行いました

9月26日(火)の午後から、来年度入学予定の子供を対象に「就学時健康診断」を行いました。子供たちは、内科医や歯科医の先生方、本校職員の話をよく聞いて行動していて感心しました。

また、八代市社会教育指導員の塩田 千恵 様を講師にお招きし、保護者を対象とした「親の学びプログラム」\*も実施しました。冒頭のアイスブレイクで一気に和やかな雰囲気となった学びの場は、その後も終始笑顔あふれる有意義な場となっていました。ここで得られた学びが、今後の子育てに生かされることを願っています。



\*「親の学びプログラム」とは、子育ての悩みや苦労などを参加者とともに話したり、体験したり、知識を得たりしながら親自身が成長していくための親の学びの場であり、仲間づくりの場でもある。

## 子育てメモ

みんな「生まれて初めて」(エッセイ「育てる」)

作家 重松清

中学生の息子を持つ父親のSさんの話。

ある夜、Sさんは息子をこっぴどくしかった。「どうして親の気持ちがわかってくれないのか」「どうして素直になってくれないのか」

すると息子は猛然と抗議に出た。「文句ばっかり言うなよ！おれ、生まれて初めて中学生やってるんだ！」

Sさんは啞然とした。だが、次の瞬間思わず怒鳴り返していた。「うるさい！お父さんだって、中学生のおまえを育てるのは生まれて初めてなんだ！」

息子もきょとんとした顔になった。そして二人は、どちらからともなく笑い出したという。

親も子も、共に「生まれて初めて」の日々を生きている。いや、人生そのものが「生まれて初めて」の連続ではないか……………。

「育てる」ということを思い描くとき、自分をゴールの側において、正しい道を進むように導くことが「育てる」ことだと思ってしまう。でも、本当はそうじゃないのかもしれない。大人も子供も、育つ側も育てる側も、みんな「生まれて初めて」の日々を生きている。大人だって、育てながら育てているのだ。

ならば、試行錯誤もあるだろう。失敗して悔やむことだってあるはずだ。かまわないじゃないか、そんなの当たり前ですよ。あえて、そう言っておきたい。

人生を何度でもやり直すことができるなら、子育ての「正解」にたどりつくだろう。でも、それができないから、すべては「生まれて初めて」であり、「最初で最後」だから、生きることはちょっと哀(かな)しくて、すごく愛(いと)おしい。